

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675200192
法人名	有限会社 福寿
事業所名	(有)福寿 グループホーム 小山田の里
訪問調査日	平成20年1月26日
評価確定日	平成20年4月25日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

平成 20年 2月2 日

【評価実施概要】

事業所番号	4675200192		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	(有)福寿 グループホーム 小山田の里		
所在地	鹿児島県姶良郡加治木町小山田1419～1 (電 話) 0995-62-7800		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年1月26日	評価確定日	平成20年4月25日

【情報提供票より】(19年 11月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年 1月 26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	13.6 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1~2 階	平屋1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	一日1100~1200円	その他の経費(月額)	一日170 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4)利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.33 歳	最低 80 歳	最高	102 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	加治木温泉病院(内科・歯科) 浜崎クリニック(内科・歯科) さんのう内科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

空港近くの山間部に位置し四季を満喫できる自然豊かな環境に開設されているホームである。管理者、職員は利用者の尊厳を大切にしながらユニット毎にその年のスローガンを掲げ熱い思いを一つにしてケアに励んでいる。年間の最大行事の一つとして開催されている夏祭りは開催準備から当日まで、地域住民及び学生、企業・役所、家族等すべての方々の心温まる協力を得て実施されている。それはホームとして地域との信頼となり深い絆になっている。まさに地域密着型サービスを実践しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員は段階に応じた外部研修に参加して、研修報告をしている。内部研修も行い職員の技術や知識の向上に努めている。市町村との連携は運営推進会議への参加や相談連携体制ができており、前改善課題は改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	運営者、職員は評価の意義を理解している。自己評価に各ユニットの職員で取り組み、改善課題について話し合い、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	行政職員、民生委員、家族代表、教師、利用者等幅広い人の参加を得て定期的に開催されている。ホームの運営状況や利用者の日々の暮らし等報告している。災害時の協力関係や利用者の身体状況に応じた避難方法等の意見を集約して、居室入口に個人相応の対応方法を明記し、サービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	運営推進会議や苦情処理委員会、家族の来訪時に感謝の言葉や身体状況に応じた入浴希望等の意見が出されている。出された要望等は職員と話し合い、具体化して運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町の要望を受けて学校の先生の体験研修を実施したり、ホーム開催の行事への参加呼びかけや、ホーム運営の相談等しながら関係づくりを積極的に行っている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は利用者の尊厳と人権を大切に、その人らしく暮らせる事を重視した基本理念と地域密着型サービスを反映した基本方針を、理念を含めてケアに活かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やホール、ホーム便りに掲示している。職員採用時に理念を伝えている。申し送り時や勉強会時に活かした方針として語り、共有しながら日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的には小学生や近隣の方が野菜等持って立ち寄ってくれたり、地域の行事参加やホーム開催の夏祭りや行事に多方面の参加や協力関係が出来ている。また、学生や先生方の体験学習も行われて交流は構築されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、職員は評価の意義を理解している。自己評価に各ユニットの職員で取り組み、改善課題について話し合い、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職員、民生委員、家族代表、教師、利用者等幅広い人の参加を得て定期的に開催されている。ホームの運営状況や利用者の日々の暮らし等報告している。災害時の協力関係や利用者の身体状況に応じた避難方法は等の意見を集約して、居室入口に身体状況に応じた避難方法を明記し、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の要請を受けて学校の先生方の体験研修を実施したり、ホーム開催の行事への参加呼びかけやホーム運営の相談等しながら関係づくりを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの配布と家族等の来訪時に日々の暮らしぶりや、身体状況を報告している。また、文書や電話でも報告している。金銭出納は事務所で管理しており定期的に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や苦情処理委員会、家族の来訪時に身体状況に応じた入浴希望等の意見が出されている。出された要望等は職員と話し合い具体化して運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員が対応する事の重要さを理解している。やむをえない異動の際には一定期間業務研修を行い利用者の不安がないように取り組んでいる。また、各ユニットの全利用者に関わる体制づくりになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階に応じた外部研修に交替で参加している。研修後の報告を行い共有できている。内部研修も行われて職員の技術や知識向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会の研修参加や他のグループホームの職員との交流も行われている。また、町内のケアマネジャー同士のネットワークも構築されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には在宅や病院に伺い面談し、本人、家族の思いの把握にも努め、見学や来訪時に職員、利用者と一緒に過ごしてもらい不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と寄り添い、触れ合う事を大切にしている。疾病や足の痛み等が軽くなった利用者の笑顔に励まされたり、聞き上手な利用者の様子を学びながら、交え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族等の来訪時に思いや意向を聞いている。日々の暮らしの中で問いかけたり、表情や言動に細心の注意を払い、本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや生活歴を把握し、家族等の要望を聞き、職員はアセスメントやモニタリング等で意見交換を行い、プランを共有しながら本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた定期的な見直しとケース記録に明記されている重要ケアに対しては毎月評価を行い、現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、故郷訪問、墓参り、他施設利用者の見舞い等、家族本人の希望や状況に応じた柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や状況変化時に重度化や終末期について本人・家族・協力医と連携をとり話し合いは行われているが、はっきりしたホームの指針は決められていない。	○	重度化や終末期に事業所としての対応指針を作成することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切にしている。日常の関わり時やミーティングの折に職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応への徹底を実践している。また守秘義務については職員採用時に誓約書もかわしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは決められているが就寝、食事、入浴時間等、一人ひとりの思いやペースを大切にしながら職員は柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と一緒に決めている。職員は食材の下ごしらえや配膳など、できる方といっしょに行いながら同じテーブルを囲んでサポートしながら楽しく食事をしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日が決められているが、本人や家族から一人ひとりの習慣や好みを聞いて希望する入浴の支援と清拭やシャワー浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、収穫、干し柿づくり、掃除(庭、洗面所、ホール等役割分担がある)洗濯物干しやタタミ、計算ドリル、新聞購読等利用者の趣味や特技を発揮できるように支援している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩、菜園での収穫、外でのレクリエーション、他施設入所者の見舞い等出かけている。地域の初馬祭、初市、木市、小学校のバザーや卒業式等に出かけて、ホームに閉じこまらない工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけないケアの重要性を認識している。日中は施錠せずプライバシーに配慮しながら様子や言動を鈴の音と見守りで自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと職員、利用者、近隣住民の参加を得て避難訓練を実施している。救助しやすいように利用者の身体状況が居室入口に表示されている。また月1回職員の訓練も行われており、災害時の備蓄もされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量をチェックしている。献立表を時々栄養士にチェックしてもらい、栄養バランスを把握している。水分補給に個別のペットボトルが用意されている。また必要な利用者には栄養補助食品なども提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天窓があり換気と採光に恵まれている。ウッドデッキに囲まれて、畳の間もあり、ソファや季節の装飾物が随所に置かれて家庭的な共有空間づくりになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、籐椅子、ソファ、大正琴、三味線、タンス、電気毛布、本立て、洋服がけ、カーペット、マットレス等使い慣れた馴染みの物が持ち込まれている。また、身体状況に合わせて、和室、洋室を選んでもらいその人らしく安心して過ごせる配慮がなされている。		